

無差別曲線と限界代替率逡減の法則

代替性のある二つの消費財，たとえば牛肉とコメについて，消費者の効用を変えないように牛肉の消費量を減らしコメの消費量を増やして行くと，コメ 1 単位によって置き換えられる牛肉の量は，コメの消費量が増えるにしたがって次第に小さくなる．

I. 無差別曲線

A. 効用との関係

1. 一つの無差別曲線上にある財のさまざまな組み合わせの効用は，みな等しい．
2. 右上方の無差別曲線が示す効用は，左下方の無差別曲線が示す効用より大きい．

B. 特徴

1. 右下がり
2. 原点に対して凸
3. たがいに交わらない

II. 限界代替率

A. 二つの見方

1. コメの牛肉に対する限界代替率

1 単位（たとえば 1kg）のコメで代替できる（効用を変化させずに置き換えられる）牛肉の量．

2. 牛肉のコメに対する限界代替率： コメと牛肉を入れ替えて考える．

B. 無差別曲線の傾き

III. 限界代替率逡減の法則

A. 限界代替率の変化

1. コメの牛肉に対する限界代替率の変化

効用を一定に保ちながら，コメの消費量を増やし牛肉の消費量を減らして行くと，コメの消費量が大きくなるにつれてコメの牛肉に対する限界代替率は次第に小さくなる．

2. 牛肉のコメに対する限界代替率の変化： コメと牛肉を入れ替えて考える．

B. 一つの無差別曲線について見ると，その傾きは，右方に行くほど小さくなる．

IV. 基数的効用理論と序数的効用理論の違い

A. 基数理論： 「長さ」「重さ」と同じように効用の大きさが定められる．

1. 効用の大きさが数値（実数）で表される．
2. その大きさについて「足し算」「引き算」が意味をもつ．

B. 序数理論： 選好の順序が確定すればよい．

参考文献

教科書．第 3 章，第 2 節．51-52 ページ．